

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

MPM

2020
AUTUMN
WINTER
VOL.13

むさしのパークライフマガジン



YOUR PARK LIFE: Park Life × 日常

FOCUS: 公園をめぐる小さな旅-むさしのエコツーリズム-

ESSAY: ヴィンテージのピクニックカップ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きっと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。






都立野川公園 朝霧のくぬぎ橋

Park Life × 日常



都立武蔵国分寺公園 こもれび広場



緑と光のなかで過ごす
穏やかな日々から、
新たな日常がはじまる。

次の週末は近くの公園に出かけてみませんか？

遠くへ出かけたり、大きなイベントに出かけたりすることが気軽にできなくなり、これまでとは違う日常の過ごし方が求められています。いつもなら、通り過ぎるだけだった公園も、別な道を通ってみたり、滞在時間を長くして、やったことのないことをやってみたり、そこにある木々や季節の移ろいをゆっくり眺めたりしてみてください。そうすると公園に広がる大きな空と一面の緑は、あなたの気持ちをもっともっと遠くに運んでくれるはずです。そんな「小さな旅」をすることが新しい日常を楽しむコツかもしれません。

公園さんぽ

いつもより少しだけ
遠くまで歩いてみる。



まだ肌寒い早春に黄色い花を咲かせる
サンシュユに、自然の力強さを感じます。

都立野川公園



湧水をたどれば、
冒険の旅のはじまりです。



春の花壇のにぎやかさに、
休憩も長くなります。

上：都立野川公園 下：都立六仙公園

公園の景色は、天気や気温によって日毎に変わっていきます。それは、毎日違う物語を観ているよう。昨日は見つけられなかった小さな花を今日は発見したり、鳥たちの声や風の匂いに身体をのぼしたり。

「この地形は昔、河が氾濫した跡」だとか、「ここで縄文遺跡が発見された」とか、その場所について少しずつ知っていることを増やしていくと、その点が面になって、この地域全体の物語を想像しながら歩くなっても素敵です。

公園やその周辺を「歩く」ということが、「日常」になると、今まで知らなかった地域の表情を見つけることもできるのです。

公園あそび

思いついたことを
なんでもやってみる。

木々の中に身を置けば、誰もがアーティストに。
都立野川公園



野川のせせらぎと鳥の声が物語を演出してくれます。

上：野川のほとり（都立野川公園）
左下：きんと雲広場（都立武蔵野公園）
右下：都立野川公園



大人だって一緒に楽しみたい！



ヒマラヤスギの木陰から名曲が生まれます。

運動やピクニックだけでももったいない、公園を楽しむ方法は自分次第！ 大人も子どもも、思いついたことを実践して遊んでみましょう。好きな景色の前で絵を描いたり、お気に入りの楽器を練習したり、読書やトランプ、編み物など、普段室内でしていたことを、レジャーシートを広げて楽しむだけでも、特別な時間になりそうです。イヤホンをして音楽を聴きながら、芝生にただ寝転がるのも最高の贅沢かもしれません。公園を自分のテリトリーとして広げてみるだけで、「日常」はずっと豊かになります。ただし、他の人の迷惑にならないように、ルールは守って楽しみましょう！



植物の開花は一期一会。その年の気候によって毎年同じように咲くとは限りません。工事のあとに群生したシロツメクサは、厳しい環境でも最初顔を出すバイオニア植物。



木々の葉が落ちると、鳥たちの姿が見つけやすくなります。裸になった木の枝の間に、サンシュユの実をついばむツグミを発見!



- 1. 自然観察園(都立野川公園) 2. シロツメクサ
- 3. むさしのカレッジ(都立野川公園) 4. ツグミとサンシュユ
- 5. ウマノアシガタ(都立狭山・境緑道)

- 1 2
- 3 4
- 5

いつもそこにあるように感じる植物も、実は毎年同じように咲くわけではありません。その年の気候やわずかな条件のちがいで、咲く花や草花のバランスがかわっているのです。去年シロツメクサが一面に咲いた原っぱも、背の高い草が生えてきたら、違う植物に覆われることもあります。正しい答えが一つあるわけではありません。落ちていた紅葉した葉や、春を待つ冬芽、道路の脇に生える雑草でも、生命の強さに出会うことができます。そこから、どんな「日常」にも負けない自然のしなやかさを学ぶことができるはず。



ウマノアシガタは武蔵野がスキ野原だった頃の記憶を伝える植物。

自然を感じる

そこにあるものを

もう一度よく見てみる。



森の妖精になって雑木林を探検したら、
いつもは出会わない生きものたちと出会えちゃう？

都立武蔵国分寺公園



公園をめぐる小さな旅

— むさしのエコツーリズム —

むさしの都立公園では、公園だけではなく、その周辺地域の自然や文化、歴史を感じながら巡る“小さな観光”をしてもらう取り組み「むさしのエコツーリズム」を推進しています。

武蔵国分僧寺金堂跡復元基壇

「知らない土地を巡る旅もいいですが、身近な場所を再発見する“小さな旅”は、自分の暮らす場所を通して、時空を超えたロマンを味わうことができますよ」。そう話してくれたのは、むさしの都立公園4ヶ所を含む多摩東部の緑豊かなエリアを回遊するプロジェクト「森の地図スタンプラリー」を企画・運営する武蔵野コッツウォルズの鈴木俊彦さん。武蔵野エリアの公園や庭園を中心に街を探訪しながら「発見」「出会い」「体験」を提案するこのプロジェクトは、今年の10月、国土交通省の「ガーデンツーリズム登録制度」に、「むさしの・ガーデン紀行」という計画で、東京都では初めて登録されました。そんな鈴木さんに、武蔵野エリアを旅する魅力について、おうかがいしました。

このエリアには広大な都立公園が多数存在するのがまず驚きですね。そして、それぞれに個性があり、その魅力には奥深いものがあります。そこには、この地域が持つ歴史や地形が大きく関係しています。ひとつは、国分寺崖線（ハケ）、もうひとつは戦争の歴史です。

国分寺崖線は、10万年以上前に古多摩川などが武蔵野台地を削ってきた崖のことで、その斜面から豊かな湧き水が流れ出て、旧石器や縄文時代から多くの人々が暮らす舞台となってきました。また、この地域には調布飛行場などの旧日本軍の軍事施設や軍事工場が多数ありました。それらが今、公園などに姿を変え、市民の憩いの場となっているのです。



崖の地形と軍事施設が緑豊かで快適な空間につながったと考えると、ちょっと非日常的で意外ですね。武蔵国分寺跡や武蔵野公園の原っぱを歩いていて、奈良県の飛鳥にいるときのような空気を感じたことがあります。それもきっと、この地域に大昔から脈々と繰り返されてきた人の営みが眠っているからでしょう。

このように、地層のように積み重なった歴史の断面を発見、体験できるのが武蔵野を散策する旅の魅力のひとつだと思います。空間の移動だけでなく、「時間軸」の移動も想像しながら歩くと、ロマンを楽しむことができる。そして、そこに豊かな緑と水辺も存在する。こんな魅力ある場所はなかなかないと思います。

一般社団法人 武蔵野コッツウォルズ 代表 鈴木俊彦

一般社団法人 武蔵野コッツウォルズ

「森の地図スタンプラリー」の主催団体のひとつ。武蔵野地域を散策する様々なツアーの企画・運営やオリジナルマップの制作などを行っている団体。「むさしの・ガーデン紀行」の事務局も担当。



ガーデンツーリズム登録制度：国土交通省が創設した制度。日本各地の庭園や公園がつながることで、魅力的な体験や交流を生み出し、国内外に発信することを目的としている。有識者による審査を経て、2020年10月現在、全国で10の計画が登録されている。



むさしのの都立公園では、「むさしのエコツーリズム」の取り組みとして、「森の地図スタンプラリー」や「むさしの・ガーデン紀行」に協力しています。また、公園独自の取り組みとして「ディスカバリーワードラリー」の開催や「むさしのの公園周辺ガイド」の配布など公園の周辺も楽しめる企画もご用意していますので、ぜひご参加ください！

NEWS

ディスカバリーワードラリー

どなたでも参加できます！

豊かな武蔵野の自然や古の歴史に思いを馳せながら、国分寺のまちを歩いてみませんか？ 史跡武蔵国分寺跡に配置されたチェックポイントを巡るとキーワードが完成します。台紙にキーワードを集めて素敵なプレゼントと交換しよう！

【受付日時】2020年12月4日(金)～12月13日(日) 9:00～17:00

【対象】どなたでも 【参加費】無料

【台紙配布場所】都立武蔵国分寺公園サービスセンター
史跡の駅おたカフェ(月曜定休)

【共催】西武・武蔵野パートナーズ(都立武蔵国分寺公園指定管理者)/国分寺市教育委員会

【お問合せ先】都立武蔵国分寺公園サービスセンター TEL042-323-8123



ヴィンテージのピクニックカップ

Episode.12

野川公園の駐車場から歩き出し、暗いヒマヤスギの林を抜けると、前方が燃えるように明るい。イチヨウの黄葉が始まったのだ。ゆつくりとそちらへ歩くと、ふいに柔らかなで、優しい情感が沸き上がる。子育て時代の始め、彼女とよくここを歩いていたのだ。

出産までの半年ほど、彼女は毎日一時間の散歩を日課にしていた。どこへ行くのかは決めない、心と体の赴くままに歩く。妊婦、健康には、そういう散歩がいいのだと何かの本で読んだのかもしれない。

次はどこを曲がって、郵便局で手紙を出して、入金して： そういう事から解放され、頭も心もユルユルホワンと、歩きたいように歩いて、座って、また歩いて、そんなふうには赤ちゃんを産みたい。そういう散歩をするためには、悠々として穏やかな野川公園は本当によかったのだ。

休日には僕も散歩に付き合った。公園まで、自転車でもすぐだが、さすがに転んだらいけないので、車に乗せていく。

「風がふいたよきーもちい きーもちい」
お腹をさすりさすり、赤ちゃんと話しかけ、彼女は歩いた。僕も頬に風を受け気持ちいい。

「緑がきれい すてき すてき」

「大きな木 かつこいつ かつこいつ」

公園には形の美しい、大きな木がたくさんあった。サービセンタ―裏のクスノキ、大芝生のプラタナス、ユリノキ： 彼女は気の向くままに木の周りを歩く。芝生に座り、空を見上げ、雲に話しかける。「ほわほわ雲さん ほわあほわあ」
その時撮った写真を時々見ることがある。遅い初産となつた息子と、自分自身のために、心と体の全てで、母になろうとした姿に、今でも涙が出そうになる。

● 予定日は12月の3日だった。日ごとに木々は色づき、イチヨウは黄色に、コナラはオレンジに、ミツバカエデは光に透けて、虹色のおようだった。自然の色彩の高まりに合わせ、彼女のお腹は大きくなり、動きはますます穏やかになり、僕らはユルユル行進した。もはやイチヨウを見ても、カエデを見ても、彼女は同じことを言った。

「君がさすさすきよう すきすきよう」

暖色に染まった公園に抱かれ、ほわほわの母に抱かれ、新しい家族が生まれようとしていた。

蜂須賀公之

はちすかまゆき

武蔵野生まれ、武蔵野育ち。東京の自然をこよなく愛するレンジャー、インタープリター。

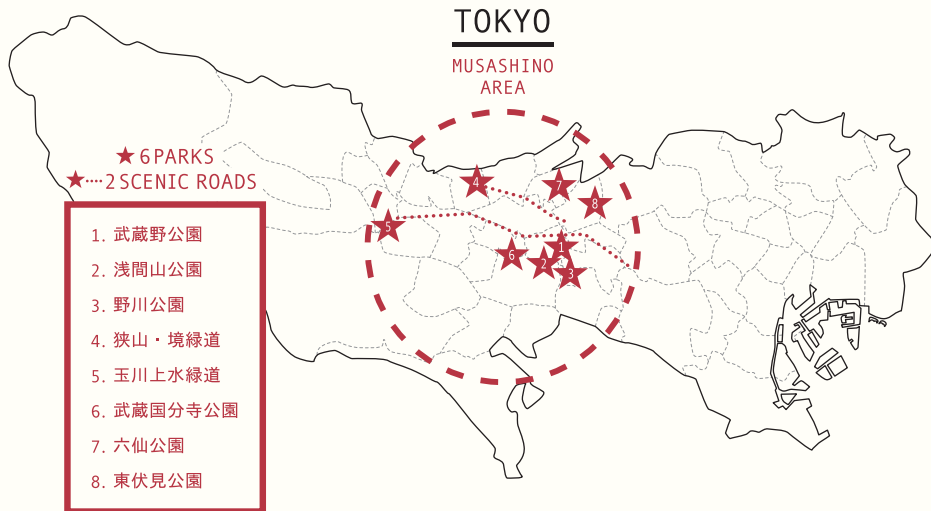
西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめます

構成団体：西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズノスポーツサービス(株)・(一社)防災教育普及協会



「むさしのの公園周辺ガイド
-国分寺崖線 野川上流エリア編-」
むさしのの各公園で配布中。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>

発行日：2020年11月30日

デザイン：川上明子

写真：NPO法人NPObirth / 鈴木俊彦 (P3、P6、P9上・右下、P12下、P13上) / 武蔵国分寺跡資料館 (P12上)

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ/リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立武蔵国分寺公園 (撮影：中倉美奈子)

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINEのバックナンバーは、むさしのの都立公園のHPで見ることができます。

<http://musashinoparks.com/magazine/>



MUSASHINO
PARK-LIFE
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>